

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 福岡県 】

県立三潴高等学校

1 実践テーマ	【 I 】
2 実施対象者	福岡県立三潴高等学校 1年生 148名 2年生 141名 3年生 124名 計413名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (総合的な学習の時間) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	オリンピックからの講演を聞き、オリンピズムの教育的価値（努力の喜び、フェアプレイ、他者への尊敬、卓越性の追求、バランスのとれた身徳知）を生徒たちが考え、2020年東京オリンピックに興味関心を抱いたり、今後の生活に活かせるようにする。
5 取組内容	○本校全校生徒413名を対象とし講演及び質疑応答を行った。 リオオリンピックでの棒高跳競技映像視聴  (1) 講師本人が出場したオリンピックリオ大会のインタビューを見て本人がどのような気持ちでオリンピックに臨んでいたのかにつなげていく。 (2) 棒高跳を理解するために映像等を見てイメージを掴む。



- (3) 棒高跳を始めたきっかけから現在に至るまでの経緯。
- (4) 目標を持つ大切さや具体的なポイントを説明。
- (5) オリンピックに出場し、その後の生活で経験したこと。



- (6) 講師の話聞き、興味を持ったことや疑問に思ったこと等を質問。

<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○棒高跳という、いわゆる関りが薄い競技における話でしたが、オリンピックということで自分(他競技)に置き換えて考えることができた。(アンケート結果から) ○本時の目標を9割以上の生徒が達成できた。(アンケート結果から) ○2020年の東京オリンピックへの関心と現役でもある講師が代表となって活躍して欲しいという気持ちを高めることができた。(アンケート結果から)
<p>7実践において工夫した点(事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○講師本人が出場した、オリンピックリオ大会の競技の様子を観せることでトップアスリートである実感をもたせる。 ○棒高跳についての映像等を見ながら説明を行うことで棒高跳のイメージをつかむ。 ○本人が高校時代に実際行っていた目標設定シートを全校生徒に披露し具体的なイメージを持たせる。 ○挫折した時から立ち直った時の体験談を話すことで生徒たちに乗り越えられる勇気を与えさせる。

8 主な課題等	○今回のオリンピック・パラリンピック教育は教師が行うよりも、生徒への刺激が大変大きいと感じられ、その効果は予想以上であった。しかし、この一度かぎりでは終わらず継続してこの教育を行っていくことが必要だと考える。
9 来年度以降の実施予定	○今回の講演を聞いて、多くの生徒がオリンピックについて興味関心を持つことができた。アスリートとして「する」だけでなく、「見る」「支える」ことでもオリンピックに関わりたいという生徒もいた。来年度も継続してオリンピック等と呼び、この事業が実現できたら、オリンピックへのさらなる普及啓発につながっていく。